

⑥ 稲の刈り取り 〈9月中旬～10月中旬〉

(2)

② 稲刈り 〈9月中旬～10月上旬〉

穂^ほが出そろってから、およそ 40～45 日たつと、黄金色の成熟期^{せいじゅく}になります。いつ刈り取るかは、収穫・品質・食味^{しょくみ}に大きく関係するので、十分注意します。

刈り取りを始めるのは、〔1〕穂が出てからの積算^{せきさん}温度（穂が出てからの毎日の平均気温を足した気温）が、ほぼ 1000 度に達し、〔2〕全体の^{もみ} 籾の中で青い籾の割合が 15～20% くらいで、〔3〕籾の中の水分が 25% 前後、この 3 つの条件に達した時です。庄内地方の稲刈りは、おもにコンバインを使って、刈り取りと脱穀^{だっこく}（籾から籾だけをとる）を同時に行っています。



コンバインが最初に田んぼに入るスペースを手刈りするスマコガリ（隅っこ刈り）



秋晴れのもと、コンバインによる稲の刈り取り作業

③ 籾^{もみ}を乾燥^{かんそう}させる 〈9月中旬～10月中旬〉

3 月に良い種を選んでから 6 ヶ月をかけて収穫した大切な籾を、品質と食味の^{げんまい} 良い玄米にするまでは、ひとときも^{ちようせい} 気のぬけない大切な作業（乾燥・調製）が続きます。



収穫した籾〔もみ〕を乾燥させる大型の乾燥施設カントリエレベータ